

タイトル	北海道における中小企業家同友会の教育(3)
著者	竹田, 正直; TAKEDA, Masanao
引用	開発論集(94): 19-32
発行日	2014-09-25

北海道における中小企業家同友会の教育(3)

竹 田 正 直*

はじめに

北海学園大学開発研究所（所長：小坂直人経済学部教授）の2012（平成24）年度および2013（平成25）年度総合研究（研究代表：佐藤大輔経営学部教授）のテーマが「北海道の社会経済を支える高等教育に関する学際的研究——北海学園大学が果たすべき役割」である。

研究グループは、①教育に関わる理論的研究グループ、②教育実践方法研究開発グループ、③教育政策・施策に関する研究グループ、④産業・企業内教育に関する研究グループ、⑤北海道における教育的課題に関する研究グループ、⑥北海学園大学における教育研究グループの6つの研究グループで行われている。

筆者は、④産業・企業内教育に関する研究グループに加わり、自身の研究テーマを「中小企業の人材養成に関する研究——北海道における」を設定した。

すでに、「北海道における中小企業家同友会の教育」のテーマで第1拙論（注1）を書き、北海道中小企業家同友会の現在の人材養成の中軸的位置にある「同友会大学」が第60期を迎えたことで、「同友会大学」第60期の理念、構成、内容と方法、さらに、筆者が担当している講義について、また、優秀な「卒業論文」の紹介をおこなった。

第2拙論は、「北海道における中小企業家同友会の教育(2)」(注2)のテーマで北海道中小企業家同友会の創立と「同友会大学」の創設、および、その際の大久保尚孝氏の論説と役割を分析した。大久保尚孝氏は、1970年に第一銀行を退職して北海道中小企業家同友会の初代事務局長（常任理事）に就任し、43年間にわたり、北海道同友会専務理事、代表理事、相談役、全国常任幹事、全国社員教育委員長、全国副会長を歴任し、同友会の発展、とくに社員教育の発展に中心的役割を果たした。残念ながら、2013（平成25）年2月19日(火)午前10時35分、肺炎のため永眠した。満83歳の輝かしい生涯であった。（注3）

今回の第3拙論では、第2拙論で解明した同友会大学第1期の開講と卒業について、どのような影響や評価がなされたかと、同友会大学の第2期以降の分析を行う。

*（たけだ まさなお）北海学園大学開発研究所特別研究員、北海道大学名誉教授

第1章 北海道中小企業家同友会第1期同友会大学開講の反響

(1)同友会大学第1期生自身の学び

同友会大学第1期は、1981年1月13日(火)に開講し、5月12日(火)に卒業式が行われた。その約2ヶ月後の7月8日に、第1回第1期卒業生同期会が「番屋」で行われた。これは、その後の同友会大学同窓会へと発展してゆく。同期会には卒業生33名のうち、関口学長をふくめ22名が参加した。(注4)

この第1回同期会では、こもごも、次のような同友会大学受講の感想が述べられた。

A氏 最初の講義で講師の話す固有名詞、経済学用語がさっぱり判らずとまどった。まず用語の学習からはじめた。同友会大学では、グローバルな視野を養うことができたのが一番良かったと思う。

B氏 同友会大学で皆勤賞をもらいましたが、4ヶ月間に参考書も20冊買いこみました。全部読んだわけではないのですが。

C氏 法律講座を聞いて、諦めていた手形の回収が法的に可能なことを教わり、翌日さっそく講師の弁護士さんに電話で教示いただき頑張ってみたところ、50万円取り戻すことができました。具体的なメリットとしては私が一番あったのではないでしょう。

D氏 何しろ、今までうしろから読んでいた新聞を前から、第一面から読むようになっただけでも革命的です。

E氏 私は高校を一年で退学してしまうほど勉強は嫌いでしたので、レポートを書くことが一番重荷でした。大学に通いはじめてから、家内に宣言したことは「これからしばらくの間、夜は本を読んだり、レポートを書くことが大変だから、あまり話かけないで欲しい。お前が話かけても相づち(ママ)しかうたないから。」と言って、夜中の3～4時までレポート書きに専念しました。今、考えてみるとよく頑張れたと感心しています。

F氏 私もレポート書きが最大の難関でした。夜、うちに帰っても子供(ママ)がうるさくて勉強できません。そこで、レポートを書く時は、家内に子供(ママ)を連れて実家に帰ってもらったこともありました。

ここに見られる各卒業生の同友会大学受講の積極的評価は、「グローバルな視野」、「参考書も20冊買いこみ」、「手形の回収…50万円取り戻す」、「新聞を前から、第一面から読むようになった」、「夜中の3～4時までレポート書きに専念」、など、大変な努力が大きな学びをもたらしていることである。これには、家庭での連れ合いや子どもたちの温かく積極的な支援も忘れられない。

この同期会では、①3～4ヶ月に1回の割合で会合を持ち、お互いの近況を交流し、勉強してゆく、②同友会の会合には積極的に出席し、社内で学ぶ気風を盛り上げる中心になる、③年に1回位は一泊の研修会を開こう、を決めて再開を約束した。

また、同友会事務局は、同友会大学第1期の卒業論文、レポートを収録した小冊子『未来へのはばたき』を発行した。

(2)同友会大学の開講と芦別市の中小企業大学校地方分校の誘致

当時、国の中小企業振興事業団は、経済の国際化に対応した日本の中小企業における人材養成の向上をめざして「中小企業大学校（東京校、関西校）」を開校し、当時の「文部省」や「国土庁」の大学等の「地方分散推進構想」にもよりそい北海道への「中小企業大学校（東京校、関西校）」分校の設置要望が道内自治体に盛り上がってきていた。

芦別市も分校設置要望の運動をはじめており、同友会大学を創設した北海道中小企業家同友会へも以下の要望書を出している。（注5）

東田耕一芦別市長から井上良次北海道同友会代表理事宛のこの陳情書では、「このたび、貴同友会におかれましては、将来企業経営の中堅として中小企業を支える人材の資質向上を図る目的をもちまして、同友会大学の開講の趣と承知いたしました。…（中略）…中小企業大学校の地方分校の芦別市への誘致につきまして、格別のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。」と、同友会大学の開講を評価して、中小企業大学校の地方分校の芦別市への誘致支援を依頼している。なお、中小企業大学校は、道内では、旭川市に設置された。

同友会大学の第1期開講中の、1981年3月23日現在で、北海道同友会の会員社数が念願の3千社を突破し、3011社に達したことが、『北海道同友会ニュース』139号で報じられ、同年4月24日に札幌市の北海道厚生年金会館（現、ニトリ文化ホール）で祝賀総会を開催すると案内されている。この会員企業の増加こそが北海道同友会への社会の期待のあらわれであり、同友会大学がその社会的期待、評価の重要な一端を担っていたことはまちがいないであろう。（注6）

地域別加盟会員企業数では、札幌1,234社、旭川311社、函館337社、帯広285社、小樽222社、西胆振169社、釧路147社、苫小牧115社、南空知109社、北空知49社、中標津ブロック43社、北見33社、である。資料2を参照。（注7）

中小企業にとっては、資金繰りとともに、人材確保と定着が恒常的な課題であるが、北海道同友会は、加盟企業の共同求人と人材養成を車の両輪としてすすめ、とくに、人材養成で同友会大学の創設は、極めて大きな影響をもたらし、これが、同友会加盟の魅力の一つとして迎えられたのである。

第2章 同友会大学第2期の開講

(1)同友会大学第2期の開講と内容

同友会大学第2期は、1981年7月7日に39名の受講生で開講した。

第2期開講の要因は2つある。第1は、同友会大学を始めたなら、必ず継続するとの方針であった。そのための基礎として、継続的に中堅社員を加盟企業が受講させることができるように、札幌圏の加盟企業が1千社以上になってからはじめる、としたことである。前述のように札幌の加盟企業は1,234社と千社を大きくオーバーしている。これが基本的要因である。次に第2の要因は、第1期受講生の予想以上の好成績と、同友会大学終了後の第1期生の積極的な自己

資料 1

55 地振第 23 号
昭和 56 年 1 月 12 日

北海道中小企業家同友会
代表理事 井 上 良 次 殿

芦別市長 東 田 耕 一
(総務部地域振興室担当)

中小企業大学校地方分校の誘致について（依頼）

日ごろ、地域、企業等の振興につきましては、格別のご高配を賜わりましてありがたく厚く御礼を申し上げます。

さて、このたび貴同友会におかれましては、将来企業経営の中堅として中小企業を支える人材の資質の向上を図る目的をもちまして、同友会大学の開講の趣と承知いたしました。まことに時宜を得たご計画と存じ心から敬意を表する次第でございます。

また、一方国におきましても、こうした中小企業を取巻く経済社会環境に対処するための施策として、既に中小企業大学校を設置（東京校、関西校）し、近く地方分校の設置の動きにあるやにうかがっておりますが、大学等の地方分散推進構想と合わせ、真に地方の時代たり得る一方策として歓迎いたしているところであります。

つきましては、こうした国の計画に対しまして、さきに道を通じまして、芦別市の道央としての地理的利点や豊富な自然、さらには、近年社会教育関係諸施設の整備の著しい本市への誘致が実現するよう、市民の総意としての期成会が発足し、懸命の運動を続けているところであり、また、一方中空知広域圏（5市5町）におきましても種々協議を行い、共同の力でその実現をめざしているところでもありますので、中小企業大学校の地方分校の芦別市への誘致につきまして、格別のご支援ご協力を賜わりますよう心からお願い申し上げます。

資料 2

1981. 3. 26

No. 139

(1)

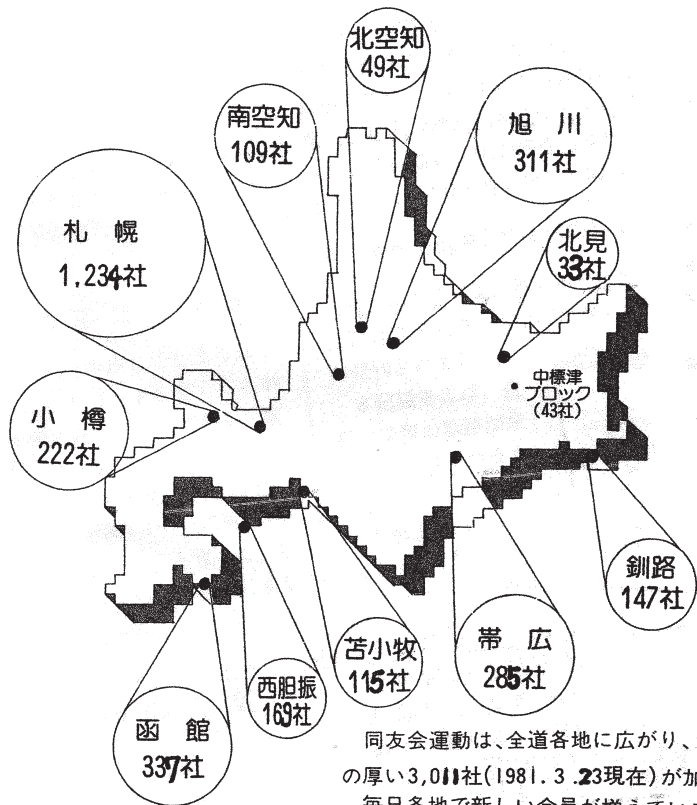


北海道 同友会ニュース

発行所
札幌市中央区北4条西16丁目
第一ビル 千 660
北海道中小企業家同友会
TEL (011)611-3411代

3,000社会員ついに達成！

皆さんの情熱と連帯の力で、3,011社となりました
(’81.3.23現在)



四月二十四日(金)
三千社会員達成祝賀総会には
全会員のご参加を！

同友会運動は、全道各地に広がり、地域や業界で信頼の厚い3,011社(1981.3.23現在)が加盟しています。
毎日各地で新しい会員が増えています。

変革と評価である。

開講日程は、1981年7月7日(火)から、毎週2回、火曜と木曜の午後6時から9時までの3時間である。講義の最終は10月20日(火)で、2週間後の11月5日(火)に卒業式が行われる。

多くの中小企業にとって、中堅幹部が4ヶ月にわたり毎週2日間、午後6時から9時まで、同友会大学を受講することは、本人のみならず、経営者、同僚社員、そして家族にとって多大な努力、協力を必要とする。それは、並みの努力、協力ではない。

第2期のカリキュラムは、資料3（注8）の通りである。

入学式（当初は「入校式」）を含め30回、プラス卒業式、計31回は、第1期と変わらない。単元Ⅰ～Ⅵの名称と講義回数（コマ割り）も同じである。また、各単元内の講義テーマもほとんど同じである。若干変化したのは、同一テーマで、2回の講義だったのが1回に減っていること及び単元内での順序の変化であり、後者は、担当者の日程上の都合によるものであろう。第1期との最も大きな変化は、担当講師が5人新しくなったことである。大学教授や弁護士、税理士など外部講師は変わっていないが、同友会加盟企業の経営者で担当していた講師が変わり、新たに同友会加盟企業経営者等が5人講師を担当することになった。

新しい担当者は、単元Ⅲの大久保尚孝北海道同友会専務理事、木野口功(株)北海道共同印刷社長(現、(株)アイワード会長)、山内幹旺(株)札幌白衣社長、山本正信(株)住まいのクワザワ社長、関口功四郎シオン樹脂(株)社長であった。木野口功氏は、今年、2014年度開講の第62期同友会大学までも継続的に担当することとなった。

なお、第2期も、北海道大学4名、札幌商科大学3名、北海道教育大学1名、北海道工業大学1名の教授・助教授とならんで、北海学園大学の後藤啓一教授が、「部下をどう教育するか(2)～現代人の社会心理と教育課題～」のテーマで協力している。北海学園大学の地域貢献、地域中小企業への貢献として30余年前から重要なシンボルの役割をはたしてきたことを高く評価したい。今日、第60期～62期で、北海学園大学教授は5人が同友会大学の講義を担当しており、北海道大学教授とならんで、大学別ではもっとも多数が担当しているが、その基礎を、後藤教授は築いたものといえる。

ところで、第2期同友会大学の受講生は、定員30名にたいして、第1期受講生(40名受講、卒業生33名)とほぼ同じ39名が受講した。平均年齢は、35歳であった。

関口功四郎同友会大学学長、社員教育委員長は、入学式で、「どん欲に学び、苦難に耐えることこそ成長の源」と激励した。(注9)さらに、第1期卒業生を代表して岡本敏之氏(現、ダイヤ冷暖工業(株)会長、同友会大学前学長)から受講のアドバイスを受けた。会場は、同友会の事務所がある第1ビル(札幌市中央区北4条西16丁目)の同友会会議室(7階)でおこなわれた。その後の講義もこの会議室が教室となった。

(2)第2期同友会大学卒業式

入学式後、暑い夏と稔の秋を、毎週2回の夜の学びに精励し、11月5日の卒業式を迎えるこ

とができたのは、35名であった。卒業認定のハードルは高く、最低基準は、出席率80%以上と、講義の6単元のうち、経済・法律・会計・営業論・科学技術論の5つのレポートと卒業論文の成績の平均点が50点以上の者である。レポートや卒業論文の採点のポイントは、大久保尚孝専務によれば、①提起されたテーマの本質にふれているか、②部分的技術的でなく総合的全面的であるか、③自分独自の表現・新しい論理展開になっているか、の3点をとくに重視したという。(注10)

35名の卒業生中、最優秀賞が吉田永氏(㈱住まいのクワザワ生産部長)、優秀賞が、柏崎敏雄氏(北星情報処理開発㈱営業本部長、その後、㈱アイテーエス社長、会長を歴任)、努力賞は、木下三雄氏(建設興業㈱常務、現社長)、土屋洋二氏(清水勧業㈱総務・計画課長、現会長)、福田康弘氏(㈱サッポロインテリア常務)、丸山敏己氏(リハビリサービス㈱営業課長)の4人である。皆勤賞は、卒業生のほぼ半数の17名であった。6人の特別賞の卒業生には、その後、企業や同友会のトップとして永年、かつ、今日までも活動している柏崎敏雄氏や木下三雄氏、土屋洋二氏のような優れたひとたちが含まれている。

関口功四郎同友会大学学長、社員教育委員長は、卒業式で、「皆さんに渡された卒業証書は、他の卒業証書とは較べものにならない程重みと価値のあるものだということに誇りを持って下さい。また、人生には卒業はありません。みなさんが努力して体得した知識や知恵をあらゆる場で使いこなし、自らの哲学を一つ一つ検証しながら築きあげていって下さい。その為にも、たゆまぬ精進を希望致します。」と、卒業への祝意とともに今後へのいっそうの学びを訴えた。以下に、関口学長祝辞を掲載する。(注11)

関口学長の祝辞は、立派な格調の高いものであるが、ただ一つ、残念なのは、次の内容である。「最後に、同友会大学第二期生を支えていただきました父兄である経営者の皆さん、講師の先生がたに厚くお礼申しあげます。」とある。この「父兄である」は、戦後、教育委員会とともに導入されたPTAが、一時期、「父兄会」と言われたこともあったが、その後、男尊女卑の用語として、学校教育や教育行政では早くから否定され、代わって、「父母会」の表現もあったが、母子家庭、父子家庭、もしくは、祖父母の養育など、全世界的、全国的な家庭状況の変化に応じて、現在は、教育実践の現場から文部科学省にいたるまで、「保護者会」が用いられている。しかし、筆者は、世界的な生涯学習時代、大学の社会人入学者の増大の時代にあって、また、近年になっても、同友会大学に新規加盟の会社社長が受講することもあるし、女性経営者も近年増加傾向にあり、経営者大学も発展しているなかで、経営者自身が受講することもあるのに、「保護者である経営者の皆さん」はおかしい。もっと広い「関係者」などの表現の模索が必要である。

(3)第2期同友会大学卒業生の評価

同友会大学教育委員会を代表して、大久保同友会専務理事が、先に紹介したように講評を述べている。「第二期生の特徴として、第一期生に較べ全体としては粒がそろっていたことと、皆

資料 3

北海道中小企業家同友会「同友会大学」講義カリキュラム（第2期）

日 程	単 元	講 義 テ ー マ	講 師
1981 年 7 月 7 日(火)	開校式	◎校長あいさつ，教育委員会の紹介， ガイダンス ◎班編成の発表，性格・職業興味検査， 一般教養テスト	
9 日(木)	単元Ⅰ 日本経済と中小企業	◎戦後日本経済史と中小企業の位置づ けについて	北海道教育大学 教 授 三好 宏一氏
14 日(火)	〃	◎北海道経済の歴史と産業構造の特徴	北海道大学 助教授 山田 定市氏
16 日(木)	〃	◎世界と日本の政治・経済情勢の焦点	北海道大学 助教授 佐々木隆生氏
21 日(火)	単元Ⅱ 経営に関する法律問 題	◎商取引に関する法律知識 (1)	弁護士 山中 善夫氏
23 日(木)	〃	◎憲法，商法，労働三法，中小企業関 連法 (1)	札幌商科大学 教 授 鈴木 敬夫氏
28 日(火)	〃	◎商取引に関する法律知識 (2)	弁護士 山中 善夫氏
30 日(木)	〃	◎憲法，商法，労働三法，中小企業関 連法 (2)	札幌商科大学 教 授 鈴木 敬夫氏
8 月 4 日(火)	〃	◎債権の管理・回収について (1)	弁護士 向井 清利氏
6 日(木)	〃	〃 (2)	同 上
11 日(火)	単元Ⅲ 企業会計の基礎知識	◎バランスシートの読み方	北海道同友会 専務理事 大久保尚孝氏
13 日(木)	〃	◎企業税務の基礎知識	税理士 加城 忠重氏
18 日(火)	〃	◎資金繰り表の作り方 (1)	税理士 平田 清二氏
20 日(木)	〃	〃 (2)	同 上
25 日(火)	〃	(特別講義) 企業の実力を判断する為には？ 危い会社の見分け方	帝国データバンク 札幌支店長 今井 正昭氏

日 程	単 元	講 義 テ ー マ	講 師
8 月 27 日(木)	単元Ⅳ 現代営業幹部論	◎営業とは何か	北海道紙工業材料㈱ 専 務 澤田 三尚氏
9 月 1 日(火)	〃	◎目標の設定と達成の手順と方法 (1)	㈱北海道共同印刷所 社 長 木野口 功氏
3 日(木)	〃	◎営業幹部の任務と役割	㈱札幌白衣 社 長 山内 幹旺氏
8 日(火)	〃	◎目標の設定と達成の手順と方法 (2)	㈱住まいのクワザワ 社 長 山本 正信氏
10 日(木)	単元Ⅴ 科学技術論	◎現代の技術革新はどこまで 進んでいるか (1) ～社会の発展と技術の歴史～	北海道大学 助教授 荒川 泓氏
17 日(木)	〃	〃 (2)	〃
22 日(火)	〃	◎コンピューターの基礎概念 ～情報化時代への対応～	北海道大学 教 授 青木 由直氏
24 日(木)	〃	◎生産管理について ～作業管理, 品質管理, 工程管理など～	北海道工業大学 教 授 川島 正治氏
29 日(火)	〃	◎中小企業の技術開発, その発想と具体例	㈱光合金製作所 社 長 井上 一郎氏
10 月 1 日(木)	単元Ⅵ 中小企業幹部論	◎これからの幹部に要求される幹部の 資質と自己啓発の目標	㈱滝川自工 社 長 滝川 巖氏
6 日(火)	〃	◎幹部に必要な現代のマナー ～話し言葉の再確認～	HBC 苫小牧支局長(元 HBC ア ナウンスアカデミー所長) 平沢 秀和氏
8 日(木)	〃	◎部下をどう教育するか (1) ～人間の発達と教育について～	札幌商科大学 教 授 方波見雅夫氏
13 日(火)	〃	◎部下をどう教育するか (2) ～現代人の社会心理と教育課題～	北海学園大学 教 授 後藤 啓一氏
15 日(木)	〃	◎幹部とは何か, あなたに期待されて いるもの	シオン樹脂工業㈱ 社 長 関口功四郎氏
20 日(火)	総括講義	◎中小企業の未来と私たちの課題	北海道同友会 専務理事 大久保尚孝氏

※ 卒論の提出

※ 卒業式は総括講義後 2 週間目に行う 11 月 5 日(火) 18:00～21:00

資料4

ご卒業おめでとうございます。皆さんがご苦労された延べ三十日間の努力が実を結んだことに心よりお祝い申し上げます。

開講当時は、不安や周りの期待の大きさにとまどわれたこともあったでしょう。しかし、卒業式で皆さんの誇りと自信に溢れた顔を目の前にして、私は本当に心強く感じさせられました。

皆さんの卒業をたくさんの方々が喜ばれたことでしょうか、ご家族の喜びは、いかばかりでしょうか。疲れた体で机に向い、眠い目をこすり、山

のような書物に囲まれ、レポートに取り組んでいる皆さんを見守ってこられた家族の方に、心からおめでと言わせていただきます。

さて、同友会大学に入学されたことは、人生においての大きな節目となったのではないのでしょうか。四ヶ月間、苦勞して書いたレポートをはじめ、各社の期待を背負わ



自らの哲学を築きあげよ

同友会大学学長
社員教育委員長

関 口 功 四 郎

れて参加した皆さんが、“良きライバル”であり、“良き友人”として精一杯の力をぶつけ合ったことがこれからの大きな糧となることでしょう。学校で学び、実社会で経験を積み、改めて同友会大学に入られたこのプロセスが今後の実践に力を発揮します。ですから、皆さんに渡された卒業証書は、他の卒業証書とは較べものにならない程重みと価値のあるものだということに誇りを持って下さい。

また、人生には卒業はありません。皆さんが努力して体得した知識や知恵をあらゆる場で使いこなし、自らの哲学を一つ一つ検証しながら築き上げていって下さい。その為にも、たゆまぬ精進を希望致します。

最後に、同友会大学第二期生を支えていただきました父兄である経営者の皆さん、講師の先生方に厚くお礼申し上げます。

勤者が17名というように一段と受講姿勢がよくなり」と評価している。たしかに、受講生が第一期生の40名より少ない39名(38名の記述もある)だが、卒業生は第一期生の33名より多く、35名である。大久保氏によれば、レポートと卒業論文の採点は、第一期生より厳しくしたとのことある。前述に続き大久保氏は、「全体を見渡して感じるのですが、三分の一の受講生は、かなりの力を発揮しています。もう、三分の一は、潜在的な力はあるが、仕事の都合で本格的なレポートを書けなかった人、最後の三分の一は、もう一ふんばり、一層の奮起を望みたい」と述べている。

受講生自身の感想や評価は、『北海道同友会ニュース』145号(注12)に、その反映がみられる。「レポート5本と卒業論文の提出を義務づけられるため、…参考書を何十冊も買いこみ、日曜返上、徹夜で勉強に励みました。」「地獄の特訓よりも、もっと質的に厳しい特訓だった。」「マージャンもやめ、ゴルフも断り勉強に集中した。」「勉強する父親の姿を見て子供(ママ)もよく勉強するようになった。」以上、卒業式後の祝賀会での受講生の発言である。また、出席した経営者からは、「同友会大学の卒業生でなければ役員にはしない」との発言もあった。(注13)

ここで、第2期同友会大学についての感想と評価として、講義の継続を側面からサポートした事務局員の眼差しに注目したい。それを見るための好材料が、『同友会大学第2期生記録集、躍進』(1981年12月)、にのこされている。それは、北海道同友会緑川幸代事務局員の特別寄稿「すばらしきかな、同友会大学=受付で見たこと、感じたこと=」(注14)である。

「レポートの〆切日には、1時間も前から席について、一生懸命にペンを走らせていた方もおりましたし、〆切日を過ぎて、申し訳なさそうに私にレポートを手渡す方も、思い起こせば、随分いらっしゃったようです。……『今、出張から帰ってきたんですよ。』と疲れた表情で飛び込んできた方、『展示会の準備で、もう忙しくて忙しくて。』とジャージ姿で、そのまま会場からやってこられた方、やはり、仕事に責任と誇りを持ってやっていらっしゃる方々は大変なんだなあと改めて感心したり驚いたりの日々でした。……レポートを書くために何冊も本を買ったという話は、ほとんどの方からきかれ、大学時代ですら、こんなに自分は勉強したんだろうかと、考えさせられることも度々。同友会大学の水準の高さは、あらゆるところに見られました。」

このように、緑川事務局員は受講生の受講の姿を生き生きと伝えとともに、厳しい仕事の中で、一生懸命学ぶ姿勢に受講生への尊敬、同友会大学の水準の高さに誇りをもってきている。事務局員の同友会大学担当の仕事は、いわば、大学教務職員の仕事である。講師は1回の講義か、多くて2回の講義担当のみであるが、教務職員は、30回の講義全てを受講生とともに聞き、日常的、継続的に受講生と接しており、受講生の様子をもっとも良く知っている。教務職員は、授業内容に直接関わるものではないが、教務職員の授業への支援対応如何によって授業への受講生や講師の取り組む姿勢へ肯定的な影響をもたらす得るのである。その点、緑川事務局員の特別寄稿を記録集に掲載した大久保尚孝専務理事と、国吉昌晴事務局長の編集方針の豊かさと先見性は見事なものである。

《特別寄稿》

すばらしきかな、同友会大学

〓 受付で見たこと、感じたこと 〓



北海道同友会事務局員

緑川 幸代

同友会大学第二期卒業を見事に果たされた皆さん、本当におめでとうございます。週二回の講義もさることながら、テーマを聞いただけで身も縮むようなレポートの数々を、無事通りぬけてこられた皆さんに心より拍手を送りたいと思います。

私にとってみれば、四ヶ月間という短い期間で、ようやく受講生の方の名前と顔が一致した頃にもうご卒業ということだったのですが、皆さんにとっては、恐らく、長く、つらい四ヶ月間だったことと思います。レポートの提出〆切日には、一時間も前から席について、一生懸命にペンを走らせていた方もおりましたし、〆切日を過ぎて、申し訳なさそうに私にレポートを手渡す方も、思い起

こせば、随分いらっしゃったようです。二ヶ月が過ぎた頃には、他人事とは思われなくなり、出席簿の斜線の数を数えては、「あ、あと一回でめだ」とつぶやく日々がしばらく続きました。第二期の卒業生の方からは皆勤賞の方が沢山でしたが、そのような高出席率の中にも綱渡りの出席で、こちらがはらはらするような方もいらっしゃいました。「今、出張から帰ってきたんですよ。」と疲れた表情で飛び込んだ方。「展示会の準備で、もう忙しくて忙しくて。」とチャージ姿で、そのまま会場からやってこられた方。やはり、仕事に責任と誇りを持ってやってらっしゃる方々は大変なんだなあと改めて感心したり驚いたりの日々でした。

レポートを書くために何冊も本を買ったという話は、ほとんどの方からきかれ、大学時代ですら、こんなに自分は勉強したのだろうか、考えさせられることも度々。同友会大学の水準の高さは、あらゆるところに見られました。

同友会大学は第二期から、七階の会議室で行われ、オブザーバー出席も歓迎してきました。一講千円の受講料を頂いて聴講していただいていたのですが、三十講のうち二十九講出席の樋口さんや、砂川からご夫婦そろっていらしゃった高速自動車工業の高津さんご夫妻には、本当にその勤勉さに頭が下がる思いです。夏、空知方面に大被害をもたらした台風の中、「美唄まではバスで出れたんですけれど、これ以上進めませんから、引き返します。」と電話を下さった時には、事務局員一同、そのバイタリティーに胸をうたれたものです。また、時々受講生の方と一緒におみえになられた経営者の方、そして様子をうかがうように、ひっそりやって来られる教育委員会の方は、同友会大学の水準の高さにどんなにか驚かれたことでしょう。その辺の大学よりはるかに優れた、自身の濃い講義内容だったと思います。これからも第三期第四期と、同友会大学は永遠に続くことでしょう。中小企業の未来を築く卒業生が沢山たびだたれることを願っています。

最後に、「講師にだけお茶を出していたけれど、私達も飲みたかった。」という声が第三期の卒業式のあとで言われました。このように事務局のいたらなかったところは数多くあったことですが、そんなところは事務局にいらしゃった時に、気軽にお話し下さればと思っております。第二期の教訓を第三期に、第三期の教訓を第四期にと、私達事務局員も努力してまいります。すばらしきかな同友会大学！皆さん、同友会大学卒業生の自信と誇りを持って未来へはばたいて下さい。



なお、この年、北海道同友会函館支部が同友会大学函館分校を、1981年9月22日より開講したり、経営者大学が、1982年から始まり、パートⅠ経済学コースが7月に修了(71名)、9月22日から、11月6日まで、パートⅡ法律学コース1～7講が開講された。さらに、パートⅢとして教育学・心理学コースも予定されていた。(注15)

このような、同友会大学函館分校や経営者大学の開講は、同友会大学の肯定的評価と影響によるものである。

おわりに

拙論では、北海道同友会の第1期同友会大学の開講について、どのような影響や評価がなされたかと、同友会大学の第2期以降の開講について分析を行う予定であった。

拙論で幾分なりと解明し得たことは、次の諸点である。

第1に、同友会大学第1期生の感想から、講義への真摯な取り組みと、卒業後の仕事や世界情勢、人生にかんする視野の拡大と深化の影響が明らかとなった。

第2に、芦別市の中小企業大学校地方分校の誘致への支援要請や、北海道同友会加盟企業の3千社突破などにみられるように、同友会大学開講後の、北海道同友会への社会の期待の高まり、積極的評価を確認することが出来た。

第3に、同友会大学第2期開講が、既定方針とはいえ、第1期の肯定的評価によって、第2期受講生も定員を超えたことである。

第4に、優れた成績を上げた第1期を手本として第2期生が努力した結果、一層優れた成績や真摯な受講姿勢を生み出したことを明らかにした。

第5に、同友会大学の教務職員ともいえるべき、担当事務局員の特別寄稿から、教育委員会、講師陣、受講生とならんで、大学の構成員である担当事務職員の重要な役割を抽出し得た。

第6に、同友会大学の第1期と第2期の成功が、同友会内部での函館分校の開講や、加盟会員企業のトップを教育する「経営者大学」の発足をもたらしたことである。これは、北海道同友会が、「社員教育」を、「社員共育」と捉え始めたこととかかわって、中堅幹部社員が同友会大学で学んでいるのに、「社員共育」を掲げる経営者も、もっと継続的に学ばなければならないとの声となってこの時期に創設されたのである。

第7に、北海道における中小企業の人材養成に、道内高等教育機関が、北海道大学をはじめ、30回の同友会大学の講義のうち、11回を担当しており、とくに、北海学園大学からも第1期に引き続き、1名の教授が担当していることは、シンボリックとはいえ重要な貢献である。

しかし、拙論で予定して成し得なかった課題もある。第1は、同友会大学第2期のみならず、数期にわたって分析する予定であったが、第2期のみにとどまったことである。第2は、資料収集の制約から、第2期生のレポートや卒業論文の内容にいたる分析ができなかったことである。記して今後の課題としたい。

注

- (注 1) 竹田正直「北海道における中小企業家同友会の教育」, 北海学園大学開発研究所『開発論集』, 第 90 号, 2012 年 9 月刊, 21~39 頁。
- (注 2) 竹田正直「北海道における中小企業家同友会の教育(2)」, 北海学園大学開発研究所『開発論集』, 第 92 号, 2013 年 9 月刊, 141~160 頁。
- (注 3) 一般社団法人北海道中小企業家同友会『激動をよき友に — 大久保尚孝さんと同友会』, 2013 年 3 月 22 日刊, 50~51 頁。中小企業家同友会全国協議会『企業環境研究年報』第 18 号, 2013 年 12 月, 81~96 頁拙論参照。
- (注 4) 北海道中小企業家同友会『北海道 同友会ニュース』, 142 号, 1981 年 7 月 20 日, 2 頁。
- (注 5) 北海道芦別市『中小企業大学校の設置に関する陳情書』, 昭和 56 年 2 月。
- (注 6) 北海道中小企業家同友会『北海道同友会ニュース』, 139 号, 1981 年 3 月 26 日, 1 頁。
- (注 7) 同上。
- (注 8) 国吉昌晴事務局長責任編集『同友会大学第 2 期生記録集, 躍進』, 北海道中小企業家同友会社員教育委員会発行, 1981 年 12 月, 12~13 頁。
- (注 9) 北海道中小企業家同友会『北海道 同友会ニュース』, 142 号, 1981 年 7 月 20 日, 2 頁。第 2 期同友会大学の受講人数については, 入学式を報じた『北海道 同友会ニュース』, 142 号では, 39 名と報じ, 卒業式を報じた同ニュース 145 号では, 38 名と報じている。このちがいの原因は不明である。
- (注 10) 国吉昌晴事務局長責任編集『同友会大学第 2 期生記録集, 躍進』, 北海道中小企業家同友会社員教育委員会発行, 1981 年 12 月, 2 頁。
- (注 11) 国吉昌晴事務局長責任編集『同友会大学第 2 期生記録集, 躍進』, 北海道中小企業家同友会社員教育委員会発行, 1981 年 12 月, 1 頁。
- (注 12) 北海道中小企業家同友会『北海道 同友会ニュース』, 145 号, 1981 年 11 月 14 日, 3 頁。
- (注 13) 同上。
- (注 14) 国吉昌晴事務局長責任編集『同友会大学第 2 期生記録集, 躍進』, 北海道中小企業家同友会社員教育委員会発行, 1981 年 12 月, 55 頁。
- (注 15) 北海道中小企業家同友会『北海道 同友会ニュース』, 149 号, 1982 年 7 月 29 日, 5 頁。